

平成20年度新入生オリエンテーション

安武 芳紘

Yoshihiro YASUTAKE

九州産業大学 情報科学部 知能情報学科

Department of Intelligent Informatics, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University
yasutake@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~yasutake/>

1. はじめに

平成20年度の新入生オリエンテーションの実施概要と新入生に対して行われたアンケートの結果を中心に紹介する。

平成20年度新入生オリエンテーションの日程と場所、参加人数は以下の通りである。

- 平成20年4月5日(土) 6日(日)
- グローバルアリーナ 福岡県宗像市
- 新入生116名、上級生26名、教員22名

オリエンテーションは4月の入学式と教務ガイダンスの後に行われるため、それらにあわせて日程を調整した。また、実施場所のグローバルアリーナは4月初旬の予約が例年固定しているため、昨年度と同様の4月4日と5日の利用となった。今年度は4日と5日が土曜日と日曜日に当たることから学生部委員により他の施設の見学、検討が行われたが、大学からの距離や設備が充実していることから今年度もグローバルアリーナを利用することとなった。

参加者は合計164名であった。上級生26名の内訳は、学部4年生が9名、3年生が6名、2年生が10名、大学院生が1名であった(集合写真(図1、図2、図3))。

2. 実施内容

今回で上級生を中心とした企画・運営が行われるようになり3年目となった。上級生は二日間のスケジュールをはじめ、レクリエーションや学生生活紹介の企画、当日の運営を行った。

1月上旬に上級生へ参加募集を行い、1月下旬にキックオフミーティングと懇親会を行った。上級生たちはオリエンテーション当日までの準備期間に約10回の打合せや作業を行った。上級生は自分が新入生のときに参加した経験や前回上級生として参加した経験を踏まえ、今年度の内容について議論を行った(図4)。

準備期間を利用し今年度もスタッフジャンパーを作成した(図5)。昨年、スタッフジャンパーがあることにより上級生が新入生と見分けがつくことや上級生の士気を高めるなどの効果が得られたためである。

2-1 レクリエーション

昨年に引き続きドッジボール、そして新しい試みとして以心伝心ゲームを企画した。ドッジボールは前回の経験をもとにチーム分けと試合スケジュール、ルールの検討を慎重に行った。以心伝心ゲームはチーム単位の連想ゲームのようなものである。連想のヒント作りや各チームの回答をスクリーンに映し出す方法などを工夫し、参加者全員が場を共有するための工夫を行った。準備の甲斐があつたか、大きな怪我もなく最後に景品を配り終わるまで滞りなく進められた。

2-2 学生生活紹介と時間割作成

新入生が時間割作成をするための基礎知識として教員や講義の紹介を行った。前もって教務委員からカリキュラムの変更点を説明していただくなどし、講義内容や担当教員の紹介を行うプレゼンテーション資料を用意した。プレゼンテーションの発表練習や時間割作成用資料の準備に多くの時間を費やしたことにより、十分な準備ができた(図6)。

3. アンケート

二日目の最後に新入生に対してオリエンテーションに関するアンケートを実施した。まずはじめにオリエンテーション全体に関するアンケート結果を紹介する(図7)。新入生のうち約六割の新入生が前向きな回答であった。

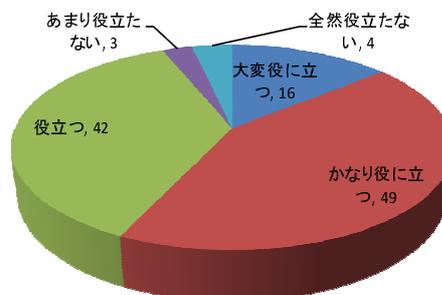


図7 オリエンテーション全体

また、単に役に立つという回答をした新入生を含めると九



図1 集合写真：グループ1



図2 集合写真：グループ2



図3 集合写真：グループ3



図4 上級生による準備



図5 スタッフジャンパー



図6 時間割作成

割を超えている。レクリエーションに関する回答においても、ほぼ同様の結果が得られた。これらのことから、新入生が大学生活を始めるにあたりオリエンテーションを行うことの有効性があったと考えられる。

次に時間割作成に関するアンケート結果を紹介する(図8)。時間割作成については新入生の五割以上が大変役

義が感じられないことが挙げられる。そこで、学外の宿泊施設を利用することによる長所を生かした企画も検討する必要があると考える。

4. 課題

今回は上級生による反省会をオリエンテーション後に行った。上級生の間でさまざまな意見が出されたが、特に報告と連絡、相談がより必要であることや、責任をもって主体的に行動することなど、グループで活動する際の課題が多く挙げられていたようである。これらは今後の課題として議事録に残し、来年度の上級生に引き継がれることとなった。

連絡に関する反省点として学生課との連絡が不十分であったことがある。オリエンテーション一日目は午前中に学生課による学生生活オリエンテーションが行われ、午後から学部上級生を中心とした合宿形式となる。これらはともにオリエンテーションの一環であるため、学生課と学部がより密に連絡を取る必要がある。実際に学生課からの要望として、来年度は合宿のしおりにキャンパス(学生生活紹介)と学友会誌を持ってくるよう記載して欲しいなど資料に関する要望もあった。

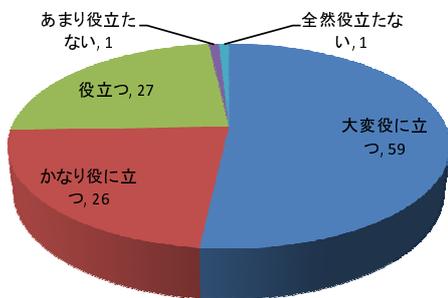


図8 時間割作成

に立つと回答している。学生生活紹介で基礎知識の習得ができたことや、資料を手の上級生のサポートを受けながら時間割を作成する方法が有効であったと考えられる。また、時間割作成の時間を十分に確保したことも良い結果となった一因であると考察する。

この他のアンケート結果で注目すべき点を二つ挙げる。一つ目は開催時期に関する感想である。実施日を、二週間後にして欲しいという意見や、平日にして欲しいという意見があった。どちらも早い時期から改善の検討を行い、関連する部署と協議する必要がある。二つ目は開催期間に関する感想である。新入生の三割ほどから日帰りで良いのではないかと感想が出されている。その理由として、レクリエーションや時間割作成などは有意義であるが学内で実施可能であるため、学外で行う意

5. まとめ

アンケート結果から今年度も新入生にとって有意義なオリエンテーションであったと考えられる。来年度は今回のアンケート結果を踏まえてより良いものにしていくことが重要である。また、新入生オリエンテーションとして有意義であることだけでなく、上級生が充実した活動を行えることも大切である。多くの上級生が自主的に参加する体制が続くよう、引き続き皆様の支援をお願いしたい。